

昭和大学医学部(I 期) 英語

2025年 2月 7日実施

[1]

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1. C | 2. C | 3. C | 4. C | 5. B |
| 6. B | 7. B | 8. A | 9. D | 10. A |
| 11. B | 12. B | 13. C | 14. A | 15. D |

[解説]

- 子どもたちは午後いっぱい、おもちゃの車、水鉄砲、などを使って遊んでいた。
 選択肢の全てが単純現在であるため、**were playing** (過去) と時制が合わないことから、何らかの決まり文句だろうという推測をすることはできるが、積極的に正解を選ぶためにはイディオム **what have you** 「などなど」を知らなければならない難問。正解は、C。
- 長くストレスのかかる 1 日の過ぎた後では、暖かい風呂が断然素晴らしい。
 正解は、C。問題文の空所を含む部分は、**S feel C** の C の部分に相当するため、補語になり得る形容詞を選ぶ必要がある。C 以外は副詞である。
- 自分の電話は食卓の上にあると思っていたが、コーヒーテーブルの上にあった。
 正解は、C。代名詞 **one** は、(冠詞) + 形容詞 + **one(s)** の形で特定・不特定の前置名詞の代わりに使用できるが、コーヒーテーブルの **coffee** は形容詞的に使われてはいるが形容詞ではなく、名詞であるため **one** で受けるのは不適切であることから、D を消去できる。
- 繁華街にあるあの新しいレストランを試してみる (行ってみる) のはいかが?
 頻出構文 **What do you say to ...?** 「・・・はいかが?」。この構文の **to** は前置詞なので、後には名詞または動名詞が続くと覚えていれば平易。正解は C。
- 書棚にある数冊の本には見覚えがない。実際、ほぼ半数は聞いたことのないものだと思う。
 文法上成立するのは B・C だが、C にすると **not + any** で一冊も知らないこととなり、後続文内容と矛盾する。正解は B。
- ケンはやエット中なのでお菓子 (甘いもの) を減らそうとしている。
 イディオム **cut down on ...** 「・・・を減らす」が分かれば平易。
- 彼の友人のうち数人も、来週の新築祝いパーティにやって来るだろう。
 所有格と、**a / the / this / some / many / this[these] / that[those]** などの語を両方とも名詞の左から名詞にかけて修飾することはできないため、両方使う場合は、**a / the / this / some / many / this[these] / that[those]** など + 名詞 **of** 所有代名詞のかたちにするという知識があれば B 以外成立しないと気づける。A>**hers** / C>**theirs** / D>**yours** であれば成立する。
- 今は亡きスミス教授は同僚や学生たちから尊敬を集めていた。
the late 人名「今は亡き～さん」「故～氏」。他の選択肢は、B「後者・後半の・(順番的に後の)」、C「最新の」、D「後で・(時間的に) 後の」。
- 我々は勝利しなかったが、これが私がチームを去った理由ではなかった。
 通常であれば関係副詞 **why** が適切だが、関係副詞 **when / where / why / how** の代用と

して that を使用できることを知らないと迷う。正解は D。

10. レースは、東京で 2 月 14 日に、山梨で 4 月 13 日にそれぞれ開催される。

A. respectively 「それぞれに」。

11. このクラスの皆、過去の経験 (の多寡) に関係なく, TOEFL テストで高得点を取った。

B. regardless of … 「…に関係なく」。A 「…にも拘わらず」。通常は of をつけない。C は, nonetheless, (直後にカンマ) で, 「(前に書かれた内容) にもかかわらず」を意味するが, nevertheless,の方が普通。D. although は接続詞のため, 後に SV が必要。

12. 芸術は、独創性と批判的思考を奨励するため、教育においては化学同様に重要な教科である。

A is no less B than C is D. 「(例えば) C が D であるのと同様, A は B である」(クジラ構文)。慌てて A を選ばないこと。選択肢 A.だと内容を否定することとなり「重要ではない」となるが, それでは理由を表す as 節内容と矛盾する。

13. 今回の会議では簡潔な全体像確認でいい・足りる。次回詳細を扱う・論ずるから。

S will do. 「S でいい・S で足りる」。文中の「;」は「~, というのも…だから」を表す。他動詞 cover 「…を (対象として) 扱う・論ずる」

14. その会社は、最終バージョンが利用可能になったときにそのアプリを一般に公開するだろう。

副詞節 when SV...内部が現在形で書かれているため, 意味的には未来を表すと判断。

The company ~ this meeting で主節が構成されていると分かれば, 空所には動詞が必要なので, A/C の二択になるが, 未来を表す A が正解。

15. エミ: 今晚の夕ご飯には行けないわ。先約があるの。

マット: オーケー, いいよ。別の日にしよう。

D. fair enough 「いいよ・結構です」

[2]

1. 3 番目: another, 8 番目: connection, 10 番目: all

(It is another that science has no connection at all to)

2. (ア) in (イ) of (ウ) with (エ) of

3. (I) B (II) D (III) B (IV) B (V) C

4. 科学において, ある理論が実験に基づく証拠と一致しない場合, 理論自体, またはそれを支える前提にどこかおかしな点があるということしか断定できないから。(73 字)

[解説]

1. 難易度はかなり高い。文法的観点だけでなく, 文脈的観点が必要な良問。直後の文で these two misconceptions とあるため, 同段落の 1 文目と 2 文目がそれぞれ 1 つ目の misconception, 2 つ目の misconception と対応するはずである。1 文目の a popular myth が misconception に対応する語句であることが分かれば, 2 つ目の misconception,

すなわち myth という語が選択肢にあるはずだが、これが another (misconception) に対応する。この1文目との対応関係が見抜けることにより、文の構造も以下のように同型反復することが予測できる。

It is a popular myth that S V because...

It is another (myth) that S V because...

ここまで構造が見抜ければあとは that 節内に適切な SV を入れるだけで英文は完成する。

2. (ア) [go] hand in hand で「相伴って」という表現
 (イ) short of A 「Aに不足している」という表現
 (ウ) deal with A 「Aを扱う」という表現
 (エ) representative of A 「Aを表す」という表現
3. (I) 直後のコロンが言い換え(説明)になるためここを根拠に解くとよい。100%正しいと確信している or 完全に間違っているという all or nothing な状況が続いているため B が正解。
 (II) 直後の because 節内で「自分たちの知識が将来の経験に基づいて改定される可能性がある」という内容が続いているため、「何も決まっていない=変わる可能性がある」という意味の open-ended が正しい。
 (III) conform to A で「Aに従う(一致する)」という意味の表現。But という逆接表現が直後にあり、過去の観測が必ずしも未来の可能性を排除するものではない、という趣旨が続いているため、これと反対になる内容「未来のデータが過去の観測と一致する」が正解。
 (IV) as と since は理由の意味で考えた場合、接続詞だから後続に SV が来るはず。given + 名詞で「～を考慮すると」という表現。
 (V) Just as SV で「ちょうど SV ように」という意味なので従属節内と同じ内容が登場するはず。選択肢 C が we cannot be sure で従属節内の SV と同型反復しているところがヒントになるだろう。
4. 理論が実験結果と一致しても、その理論が正しいと断定できない理由を述べる問題。直後に why[理由]とあり、その疑問に対する答えが because SV[理由]で展開されている。従って because SV の内容を記述すればよいが、ここだけでは抽象的過ぎて何の説明にもならないため、この部分をさらに具体化している the only thing we can ... の部分をまとめて記述すればよい。「理論が正しいと証明できない」⇔「理論が間違っていることのみ証明できる」と裏から言い換えており、内容的にこれを記述する。

[3]

1. (IV)
2. (ア) it (イ) sun

3. an
4. D
5. ニューロンの発火を見ることで、被験者がどんな単語を聞いたか、それがどのような順序で現れているかを特定することはできたが、元の完全な文を復元することはできなかったということ。
6. 言葉の聴き取りでは音ではなく、単語の意味カテゴリーごとに特定の神経細胞が反応していることが明らかになり、その神経反応によって語の種類と語順が特定できるようになった。これは将来、発話障害を患った人の助けとなる可能性がある。(110字)

【解説】

1. 補充する文に、**He** という代名詞があり、また被験者が聞いた単語や語順も分かったという実験結果に感銘を受けたという内容であるから、第 11 段落に出てくる **Vikash Gilja** 氏の発言であると判断できる。よって、(IV)に入ればよい。
2. (ア) 強調構文なので、**it is A that...**「...であるのは A である」を作る。
(イ) **son** と読み(音)は同じだが、意味的な関連がない語は、**sun**「太陽」。
3. **unique** の語頭は、母音ではないので **an** ではなく、**a** にするべきである。
4. (i) **mouse** と **rat** は **similar**「(意味の)類似した」単語。
(ii) **mouse** と **carrot** は無関係な関係にあり、「無作為の」。
(iii) **above** や **behind** は、相対的な位置関係を表す単語であり、「関係性の」。
以上より、**D** が適する。
5. 下線部の具体的な意味内容は直後の文で説明されており、被験者が聞いた「単語」やその「順序」は特定できたが、読み上げられた完全な文までは復元できなかったということ。
6. まずは、実験結果である「単語の意味カテゴリーごとに特定の神経細胞が反応していること」、そして、その帰結である「語の種類と語順が特定できるようになったこと」、最後に、将来研究がどのように活かされるかについての「発話障害を患った人への助けになる可能性」という 3 つのポイントを要約に盛り込みたい。

【総評】

文法・長文・長文の 3 題構成は昨年度と同一。記述問題の増加したここ 4 年間のみで比較するなら、難易度も例年並みと言える。大問 1 の文法問題は相変わらず問題によって難易の差が激しく、奇問の類もある一方で、絶対に落とす必要はない超基礎レベルの問も存在する。今回で言えば、4, 5, 7, 9, 10, 11, 14 は絶対に落とすべきではない。大問 3 では、2022 年度 I 期と同じく、「本文の要旨をまとめよ」という問いが出題され、やや **time-consuming** であったかもしれない。字数の制約がきつく、いかにスマートに要素を含めるべきかで悩むであろう。昨年度比で総じて難化、一次通過ラインは 65% 程度か。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校

YMS

heart of medicine
☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木 1-37-14

医学部進学予備校

メビオ

☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校

英進館メビオ 福岡校

☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録 ▶



LINE 登録 ▶

